

安全・安心な給食提供を目指して 日野市立保育園給食について

日野市立保育園栄養士会

乳幼児期は、健全な食習慣の基礎を形成する時期といわれています。

子どもたちの心身共に健やかな成長を願い、食の大切さを伝えながら、安全・安心でおいしい給食作りを心がけています。



日野市立保育園
食育キャラクター

ファーストマトちゃん

日野市立保育園食育推進標語

- ① ので できた たべもの
- ② こさず みんなで たのしくたべよう
- ③ つくってくれたひとに かんしゃして
- ④ こころも からだも げんきなこ



日野市立保育園
食育キャラクター
ブルーベリーちゃん

1. 手作りしています

- ・毎日新鮮な野菜を使用して作ります。
- ・カレーやシチューのルウも手作りです。

2. 薄味です

- ・だしや素材の味を生かし薄味に仕上げています。
- ・塩分は大人の半分位です。

7. 石けんを使用します

- ・自然環境と健康に配慮し、食器洗浄や掃除には石けんを使用します。

6. 食品衛生を徹底しています

- ・独自の衛生管理マニュアルに基づき調理をしています。
- ・乳幼児にとって安全で衛生的な給食の提供を目指します。

日野市立保育園 給食の特色

3. おやつは補食と捉えます

- ・3回の食事ではとりきれない栄養素を補っています。

5. 和食や行事食、 旬の食材を使用した献立です

- ・五節供や季節の献立、旬の食材を取り入れて作ります。
- ・日野産の野菜や果物も使用します。

4. 噛む力を育てます

- ・かみごたえのある食品や調理法を取り入れています。
- 例：薄切りよりコロコロに切り、茹でる硬さを調整する



公立、私立、給食の提供は様々ですが、みんなが安心して食べられる給食の提供は、有難いですね。

栄養士から見た子どもの成長

至誠あずま保育園

「家では野菜を食べないんですよ」保護者から時々聞く言葉です。

保育園には0歳から5歳までの子どもが生活し日々成長しています。子どもたちの成長は食を通して見て感じる事が出来ます。園児が年中・年長になった時に、ふと小さい頃を思い出し、「とても小食だったけど今は御飯をお代わりするようになった」「野菜が苦手だったのに給食を完食するようになった」「食事が終わると、片づけをせずにテーブルの下に隠れていた子が片づけをしている」と長年の成長を感慨深く感じる事が出来ます。一方、日々の給食の時間に見つける小さな成長もたくさんあります。「昨日絶対に口にできなかった物を食べていた」「バラバラの食具を綺麗に整えてくれた」。その小さな成長を出来るだけ見逃さないように心がけ、こうした姿を見つけた時には、栄養士として「食べたねー」「ありがとう」等言葉を掛けるようにしています。子どもは、ちょっと照れ臭そうにしていますが、そのような些細なことの積み重ねが子どもの育ちに繋がっているのだと思います。

乳幼児期の食事は「楽しく・美味しく食べる」ことを大切にしています。食事の時間が楽しい時間になることで、新しいものに挑戦してみようという気持ち生まれ、食の幅が広がっていきます。給食という限られた時間ですが、栄養士の立場から食べられたことを褒め、食べられなかったことはまた明日…と大らかな気持ちでこれからも子どもの成長を見守っていきたいと思っています。



栄養士は、保育士とはまた違った視点で子どもとの関わりを大切にしています。

「美味しい」の笑顔がいっぱい 1・2歳児

【子どもの姿】

○出された食事を見て「これいらない!」と皿をよける。
○好きなものを食べ終わると「ごちそうさま」と終わりにしてしまうなどの姿がある。

【ねらい・意図】

「食べる事」をもっと楽しくするようにと願い、食べられる食材や料理が少しでも増える事により、自信につながり食べる事にもっと興味や喜びを持つ。

ののはな保育園

【心掛けたこと】

- ① 子ども達と一緒に食事をして「おいしい」を共有する。
- ② 盛りを少なめにする。
- ③ 苦手なものは減らす、あるいは別盛にする。
- ④ 近所の畑の作物をみる、絵本でも興味を持たせる。
- ⑤ 十分に身体を動かしお腹を空かせる。
- ⑥ 料理する音や匂いも身近に感じさせていく。
- ⑦ 食べられない、食べたくないも認めていき、その中で保育士は個々に対して見通しをもって関わっていく。

【保育の経緯】

○同じ食卓で一緒に食べることで、時には具材探しをしたり「キュウリ、パリパリしてるね。」等会話もしたりしている。
○散歩中に見つけた野菜を「これは茄子?これはネギ!」と興味も出てきた。
○外でいっぱい遊んで帰って保育園のドアを開けると「わあ~いいにおい」「今日はなんだろう?」と食事を楽しむ姿がみられるようになった。
○調理員が買ってきた食材を見せながらの食材あてクイズ。これによって、すぐに食べる事につなげる意図ではなく、食材自体に関心を持つこと、知っているという自信と共に身近に感じる事を重視した。



食材当て
クイズ
「何だろう?」

皮の色は違うけど
形は同じだね。

切ってみても
形も色も同じだね。



食べてみたら
「違う!」
不思議だね。

【考察】大切な「食事」だから少しでも幅広くいろいろな食材、料理を食べられるようにとつい「一口だけ」と言葉がけしていた。一口でも食べられたら自信に繋がってそこから「食べることが楽しい」に繋がっていくことを期待する気持ちだったが、様々なアプローチの中で食べられる食材、料理及び量も増え食事時間の楽しさの度合が増した。そして楽しいから食べる意欲につながる。食卓だけの問題ではなく、生活、遊び、環境が食事にもつながっていく。また無理にすすめず、待つことの大切さも再認識した。待つことの大切さは食事だけではなく、色々な面でも関連していくことでもあると推察する。



生活や遊びの中から、食への興味・関心が生まれ、食事の楽しさ、食べる意欲につながっていくことは良い経験となりますね。

そら豆の栽培・収穫

3 歳児 4 月

つくしんぼ保育園

【子どもの姿、思い】

園庭の畑では一年を通して様々な野菜を育てている。「あれは何の野菜?」「もう食べられる?」葉や実が大きくなっていく様子を楽しみに見ていた子どもたち。自分たちの初めての畑活動がそら豆と知ると、そら豆の絵本を思い出し楽しみにしていた。

【ねらい・意図】

そら豆の栽培から食べる経験を通し、土との触れ合い、実のなり方を知る。食物に対して興味をもち、食に感謝する心を育てる。

【心掛けたこと】

そら豆の栽培、収穫は2歳児クラス～3歳児クラスにまたがるため、担任間の引継ぎをしっかりと行う。そら豆の生長を確認し各工程の時期を畑の先生や栄養士と話し合う。

【保育の経緯】

水やりは自分たちの役割と張り切って毎日のように行っていた。春になり、さやが膨らみ始めると収穫は今か今かと待ちきれない様子だった。収穫できるたびに達成感から自信に満ちた表情で調理室へと運んでいた。

畑に詳しい職員に、そら豆の種植えについて教えてもらいました。



毎日交代で水やり



これ知ってる、
そらめくんだよね。

お水いっぱいあげるね。
明日そら豆できてるかな?

【考察】

約5か月の間、そら豆の生長を身近に感じながら畑活動に参加してきた子どもたち。水やりの役割を担うことで責任感が生まれ、育てる楽しさや収穫できた時の喜び、達成感を味わっていた。さや取りでは、においや硬さ以外にも多くの発見があり実際に触れることができる貴重な体験をした。自分たちで育てたそら豆を苦手な子も食べてみようという気持ちが芽生え、楽しく食べる姿が見られた。

さや取り体験



そらめ出してきたよ!
なんかにおいもするね。
これ食べていいの?



食材を身近に感じ、食への興味や関心に繋げています。時間を掛けて食物の成長を見守っているんですね。

食への関心を深め、食べる喜びを育てる 5歳児

栄光多摩平の森保育園

【子どもの姿、思い】

今年度の5歳児は食べる事に対して意識が高いクラスだった。「何が入っているの?」「どうやって作るの?」「作ってくれてありがとう」など、興味もどんどん広がり、いろんなお話をする機会も増えた。

【ねらい・意図】

栽培・調理・食事を通して得られる新しい発見から、食に関する考え方を豊かにできるような食育を考える。

【心掛けたこと】

栽培から食事まで、継続した食育を行うことで、発見を楽しみながら、周りの人たちと喜びを共有できる環境づくり。

ピザ作り

一人分の材料を小分けにして、作業しやすかった。



自分で作ったピザはおいしいね。



すごい!
メロンででき
てるんだね!

みそ作り

大豆から出来ている他の食べ物のお話と一緒にした。



大豆から
味噌が出来
るんだ～。

いつもと違う切り方や提供の仕方で、食への興味をさらに深める工夫をした。



すいかの
ケーキだ。



家でも工夫して
みたいと思います。

色々な食材を
食べるよう
になりました。



【考察】

食育活動の前後は、必ず保護者にお知らせすることで、家庭でも話題となり、会話が生まれ、食べる喜びへとつながっているようだ。保護者にも関心を持ってもらうことで、家庭とのコミュニケーションにもつながる。



自分たちで野菜を育てたり、調理することで食べ物を大切にする気持ちや、作ってくれる人への感謝の気持ちが育ちますね。

玉葱の草木染め

5歳児

至誠ひの宿保育園

【子どもの姿】

野菜が苦手な子どもも達がいる。献立によっては残食が多く出てしまう日がある。食に対して興味を示さない子どもも見受けられる。

【ねらい・意図】

食材が食べる以外にも有効利用できることを知り、食に対する興味を高める。

【心掛けたこと】

子ども達にとって身近な食材である玉葱を選んだ。食育当日に玉葱を使用した献立を取り入れた。

2歳児に使用する玉葱の皮を置いてもらいました。



集中しています。

絞り染めに挑戦...



上手にゴム留めすることができました。

【食育の経緯】

実際に玉葱を見せ、調理の際には約30個分の食べられない皮が沢山出ること、その皮を捨てずに利用出来ることを伝え、草木染めを体験してもらった。

玉葱の匂いがするね～。



玉葱の皮を煮るとこんな色になるんだね！

模様ができた!!



綺麗な黄色に染まったよ！

友達同士、柄の違いを見せ合っていました。

【考察】

食に対して関心が薄い子どもが、保護者に玉葱染めについて嬉しそうに話す姿を見て、食育の効果を実感した。他の野菜でも染めてみたいとの意見も出て、食材に対する興味が深まった様子だった。食育に使用した玉葱を使った料理は完食し、自分たちが関わった食材に対する関心が深まったことを実感した。



何気なく捨ててしまっていた玉ねぎの皮が、工夫により教材になり、子ども達の食への興味に繋がってますね。

体調不良の早期発見を治療につなげる

日野わかば保育園

【子どもの姿】

乳幼児はまだ体調不良を正確に伝えることが難しい。体調が回復するのも早い、悪化するのも早い。

【ねらい・意図】

乳幼児は体調不良を正確に伝えることが難しい。体調が回復するのも早い、悪化するのも早い。体調がすぐれない場合、早く療養に入るために、早期発見が重要になる。医療機関の診察時間や保護者のお迎え等も踏まえ、どうしたらよいか職員で考えていく。

【心掛けたこと】

- ・登園時、視診を行う。
- ・登園時、家での様子を聞き取る。
- ・受診が間に合う時刻に再度視診等をする。
- ・体調が気になる時は、予め様子を見ていることを保護者に伝える。

診察時間に間に合ってよかったですね。

保育園が連絡してくれて助かりました。

これ以上悪化する前に受診できてよかったです。

ある土曜日の午前、Aくんが咳をし始めた。他児に飛沫しないよう、少し間をとり様子をみる。

徐々に咳き込みがひどくなる。保護者に症状を説明し、迎えをすすめるが、今すぐには行かれないと言われた。その後、喉と腹部の陥没呼吸の症状が出始めた。保護者に再度連絡し症状を説明し、至急の受診をすすめたところ、受診してくださることになった。土曜は午前中のみの診察だったが間に合い、医師より受診が間に合ってよかったと言われる。その後、順調に回復した。

【考察】

・登園時に視診をし、家庭での様子を聞いておくことで、症状を時系列で追うことができる。気になる症状がある時は、保護者に症状を適時伝え情報共有していくことで、受診や療養の必要性への理解と実行につながった。

お子さんの体調不良に気付き、お医者さんにも受診が間に合ってよかったと言って頂け良かったです。元気になった姿を見てほっとしました。

早期発見・対応のためにも、登園時の視診はとても大切ですね。保護者への寄り添いの言葉と適切なアドバイスが安心に繋がります。

感染症から子どもを守るために

たかはた北保育園

【目的】

『園にウイルスを持ち込まない！』

感染症を広げない！』

を心がけている。ウイルス対策を通して、
見えないものから園児・保護者・職員を守る
ことを目的としている。

【情報共有】

近隣の小学校や他園で流行している感染症の情報は、すぐに職員間で周知をし、保護者にも掲示板やメールでお知らせしている。情報を分析し予測をたてながら実行する。

対策①

早期消毒/早期連絡
初動対応を重視しスピード
感を持ち対応している。

【子どもへの指導】

声掛けなどによる、毎日の手洗い・うがい等の習慣付けや、看護師による保健指導では紙芝居や絵本を使用し、専門的な視点から子ども達にわかりやすく伝えている。



保育士 A

保育士として自身の健康が大切だと学び、子ども達を守るために、まず大人が感染症にかからないという意識をもって、手洗いやマスク着用、子どもの体調管理など対策を行っています。菌を園に持ち込まない！を実践しています。

対策②

トイレや子どもが触る場所を徹底的に消毒。嘔吐は2回消毒をし、ウイルスの消滅を目指している。

【保護者への対応・反応】

保護者に感染症の情報を伝え正しく理解してもらう。感染症が増えている時期は、発熱時などは、適切な保護者への連絡を心がけている。

園では嘔吐処理や便・血液の取り扱いについて研修を毎年行っています。その手順をしっかり守り菌を周囲に拡げない、感染症を流行させないように毎日の仕事を丁寧に、心がけています。

保育士 B



対策③

情報伝達は職員間でこまめに、感染対策のレベルはすぐにあげて職員一丸となり対策に動いている。

【病児保育について】

様々な病気のお子さんが来園するので、感染症に関しての情報共有や室内、玩具の消毒を徹底している。



看護師

子ども達の個診を日々しっかりと行い、変化に気がつくようにしています。保護者への声掛けや園での感染対策を看護師だけでなく保育士も交えて話し合いをして決定することもあり、様々な状況を考えて対応する力を日々身につけています。



感染症は、早期に対策を講じることで拡大を防ぎ、子ども達、保護者、職員への影響を軽減できますね。日頃から、職員間の伝達を大切にしたり、研修などを実施したりして、対策を考えておくと、慌てずにいられますね。

日中やプール・水遊び時の事故防止

あおぞら多摩平保育園

【ねらい・意図】

乳児クラスでの小さいプールでも、水圧でバランスを崩してしまった、顔に水を受けて慌ててしまい、友達とプール内でぶつかってしまったなど、元氣いっぱいな子ども達はケガをしやすいため注意が必要である。日頃から子どもたちの発達や実態に即した様々な対応を考え、事故を未然に防止する事が大切である。

転落・転倒・衝突



園庭や公園では、滑り台やブランコなど、子ども達が遊具を使用して遊ぶ機会は頻繁である。転倒や転落をしそうになったり、かけっこで他の子に気が付かず衝突しそうになったりするヒヤリハット事例が生じる。けがを負う可能性のある個所には、カバーを付ける、周囲に友達がいることを知らせるなど、普段から危険が発生しないよう保育士同士の連絡を取りあい、連携を大切にしている。

午睡時の
事故

乳幼児突然死症候群の観点から、うつぶせ寝での午睡が危険であり、常にあお向けを維持して安全な姿勢になっているか十分な配慮が必要である。上掛けが顔に被さりそうになった、体調がすぐれず咳き込みから呼吸が乱れたなど、寝相だけでなく、呼吸を妨害する要因は多々あるので子ども達に対して細心の注意を払うようにしている。

プール・水遊び
の事故



プールで使用する塩素液の取り扱いに留意する。
監視者は、ビブスを着用して目立つようにし、監視に専念し、監視方法や人数確認など、普段以上に気を配り、安全に遊びができるようにしている。また、水量を調節し、底に滑り止めマットを敷くなどの対応をしている。水の苦手な子ども達と活発に遊びたい子ども達と、プールを分けたり、時間を区切って順番に遊んだりしている。また、プール外でも楽しめるように、大きなタライなどを用意し、ゆっくり安心して楽しめるようにした。

【職員の声】

- ・楽しく活動するためには、安全管理が重要ということを強く思った。
- ・誰かが見ているから、やってくれているからではなく、きちんと役割分担して、自分の分担を明確にしておくことが大切だと思う。
- ・重大事故防止のために、職員みんなで今後も取り組んでいきたいと思う。



ヒヤリハットの振り返りを大切にし、環境整備や職員の意識の改革などで回避できることがありますね。



保育園の防犯対策・環境

日野駅前かわせみ保育園

【防犯意識の構築】

新人研修のほか、園内の防犯マニュアルを作成し、共通の知識や意識を持つようにしている。
また、園内を点検し、フェンスの高さの見直しなども行った。

【防犯訓練の実施】

月1回の防災訓練時に、園内に設置されているさすまたにも触れる機会も設け、使い方等を職員同士で確認するようにしている。
他にも、職員間の連携を図るために、独自の訓練（訓練の時間を全体に告知しない、子ども達にも合言葉を伝え、日中の活動中に訓練を実施するなど）も取入れている。

【万が一の対応】

- ・不審者情報の共有を行い、戸外では、戸外用携帯電話を持ち、職員といつでも連絡がとれるようにしている。
- ・不審者が園周辺に出没したり園内に侵入しようとしている時は、瞬時に職員全員が把握し、速やかに対応できるよう、不審者発生の合言葉を設定し、放送で流すように決めている。
- ・また、直接保育園から警察署に繋がる“学校110番のボタン”をすぐに押して警察署からの応援を待つ。

（実際の防犯訓練の様子）



警察に依頼して、使い方や万が一の際の不審者対応について確認し、学ぶ時間を設けるようにしている。

（一階のフェンスの高さを増築）



道路に面している1階の保育室の窓には、乗り込むことが困難になるように、高めのフェンスを設置している。

（保育室ドアの内鍵設置）

＜内鍵施設なし＞



＜内鍵施設時＞



合言葉の知らせ（放送）が流れたら、連携してすぐに職員が保育室に設置してある内鍵を施設するように決めている。内側にしかないとによって、外からの侵入を防ぐことができる。

【考察】

たくさん子どもたちを預かる保育園では、防災対策のほかに防犯対策も重要になってくる。子どもたちの命は絶対的なものもちろん、保育園で管理する金銭や個人情報も保育園がしっかりと管理し、守る必要がある。

保育園内への人の出入りが多く、不審者が迎えを装って侵入してくる可能性が十分に考えられる。

以上のことから、不審者への侵入対策は保育園の園内だけに限らず、警察や自治体から情報が入ったらまずは園児たちの安全確保に努め、可能な限り不審者を園内に侵入させない対策をとる事が重要になってくる。また、それと同時に外部研修や園内研修で実践的な知識・技術を学んでいくことや、防犯訓練を取り入れていく事が重要であると考えられる。



防犯対策は、ワンパターンのみでなく、様々な想定を考え、色々なパターンに対応できるようにしておくことも大切ですね。訓練も回数を重ねて、スキルアップに努めましょう。

子ども達の安全を守るためにできること

ただいま | 2Smile House

【大切にしていること】

子ども達や職員を守るために、日頃から安全対策マニュアルを作成
不審者対応訓練の実施に取り組んでいる

園の特徴

- ・園庭がなく、第二避難場所の幼稚園に行くためには距離がある。
- ・第二避難通路の窓は高さがあり、子どもを抱っこしないと外に出られない。
- ・子ども用トイレが避難場所として適している。

不審者対応マニュアル

- 1、対応した職員は、合言葉で他の職員に不審者が入ってきたことを伝える。
合言葉を発すると危険と判断した場合は、手で合言葉を表現する。非常通報 110 番を押す。
- 2、保育室にいる職員【保育士 A・B】は子どもを集めて子ども用トイレに避難させ安全を確保する。
- 3、【保育士 C】は、携帯電話を持ち子ども用トイレに避難し、突っ張り棒でドアを開かないようにした後、携帯電話で幼稚園に連絡をする。

改善事項

- ・非常通報 110 番を設置し職員の役割分担を明確にし、定期的に確認し合っている。
- ・トイレ近くの棚に外部への連絡のための携帯電話を常に置くようにした。

実施結果

【職員の声】

- ・職員の役割分担を定期的に確認することが大切だと思った。
- ・色々な事態を想定した訓練を実施することも大切だと思った。
- ・きちんとマニュアルがあるので、訓練ではマニュアル通りに動くことができた。



マニュアルをしっかり把握し、様々な状況を想定した訓練を職員全員で行い、
子ども達や職員の安全を守りましょう。

職員が元気であるために

栄光たまだいら保育園

【大切にしていること】

毎日元気に子どもたちと生活をしていく保育士の健康は大事なことです。日々顔色や表情も見ながら対応している。職場における職員の健康管理を行って、毎日元気に仕事ができるようにしている。

健康診断の結果を確認し、コピーを看護師が管理する

- ・本人が希望した場合は、結果について健康相談を行う。適時その後の経過の把握をする。

既往歴の把握をし、勤務中の体調不良がないか観察・声掛けを行う

- ・必要時園長へ報告、相談をする。

休暇を取る

- ・体調不良時には無理をせず休養をとることが、自身だけでなく周囲の職員の健康維持につながることを指導し、休みやすい環境を整える。

休憩時間の確保

- ・子どもと離れ、しっかりと休憩をとれる環境を整える。

メンタルヘルスケア

- ・ストレスチェックの実施（年1回）
- ・問題が起きた時には職員で話し合いをし解決したり、忙しいような職員がいた場合声をかけ合い、手伝うなど、責任や仕事量の分散が図れるようにする。
- ・最低でも年1回園長との面談を行う。それ以外でも申し出があった場合には、その都度相談できる環境を整える。

勉強会を行う

- ・感染予防（吐物や便・血液の扱いも含む）のための勉強会を行い、自身の健康を守る為の指導を行う。

職員の声

- ・自身の健康管理は、働くうえでとても大切だと思う。
- ・保育園全体で、職員の健康管理をしてくれるのはありがたい。



子ども達は、元気いっぱいな笑顔の先生が大好きです。園全体で個人の健康管理も大切な仕事のひとつですね。